

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	国際・国内交流の推進と定住の促進		課(室)名	移住・定住促進室
	施策	移住・交流の促進		電話番号	087-839-2135
	基本事業	選ばれる地域づくりの推進		事業実施主体	市
	事務事業	移住・交流促進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市への移住・交流人口の増加を図るため、県とも連携しながら、本市が持つ多種多様な地域・観光資源や都市機能等の情報の効果的な発信など、本市への移住・交流の誘引に努める。 また、たかまつ創生総合戦略における数値目標の一つである「平成31年に年間の社会増を1,000人」の達成に向けて、たかまつ移住応援隊の設置など、各種の移住・定住促進策に取り組み。				
30年度概要	香川県移住・定住推進協議会としての各種取組 移住促進家賃等補助事業の実施 たかまつ移住・起業応援プロジェクトの実施 首都圏就職・移住相談コーナー（仮称）の設置 移住促進プロモーションの強化に関する取組				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）


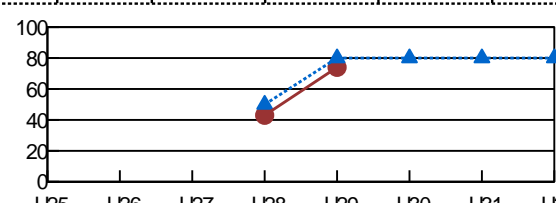

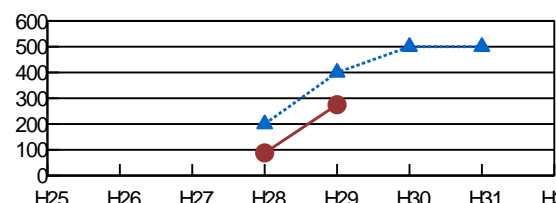
【事業の目的】

対象（何を）	市外に居住しており、地方への移住を考えている人
意図（どのような状態にしたいか）	地方への移住を考えている人に対し、本市の魅力を実効的に発信することなどにより、本市への移住を促進し、人口減少の抑制を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
移住・交流イベント実施回数	回		4	6	5	5
移住ナビ新規情報発信回数	回			1	40	40

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
移住交流フェア等相談組数	組	目標値		50	80	80	80
		実績値		43	74		
<b>成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）</b> 県移住・定住推進協議会による大都市圏での移住フェア等に、3回参加（本市ブースの相談数：27組）するとともに、本市独自の取組として移住希望者の相談機会の増加を目的とした首都圏交流会を開催（参加者数：28組）し、昨年度を上回る実績を上げた。 							(達成度) 92.5% 32点
移住促進事業を利用した移住者数の推計	人	目標値		200	400	500	500
		実績値		88	275		
<b>成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）</b> 移住促進家賃等補助金については、平成28年度22世帯に交付決定したのに対し、29年度は24世帯交付決定を行った。 今後、本市独自の移住促進策を充実させるとともに、本市の取組についての広報活動に努める必要がある。 							(達成度) 68.8% 24点

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	13,329	21,167	22,324	34,701
（事業費）	[千円]	8,723	10,176	11,702	24,079
（職員人件費）	[千円]	4,606	10,991	10,622	10,622

【評価】

評価ランク (A～D)	<b>B</b>	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	<b>拡充</b>
-------------	----------	---------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

平成29年度は、香川県移住・定住推進協議会への参画など従来の取組に加え、本市独自の取組として新たに「たかまつ移住応援隊」を設置し情報発信や相談対応を行ってもらうとともに、応援隊を軸に市内移住者交流会、移住体験ツアー、首都圏交流会といった新たな取組みを実施した。  
 今後はより実効性のある、本市ならではの移住・定住促進施策の戦略的な展開を図っていく必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

たかまつ移住応援隊の移住リーダーを中心とした移住者の受け入れ体制の強化や、効果的なプロモーションを実施するほか、首都圏に居住する起業・就業志向の移住希望者に対する働きかけを具体的にを行い、移住・交流を一層促進すると共に転入後の定住に結び付ける。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	国際・国内交流の推進と定住の促進		課(室)名	地域振興課
	施策	移住・交流の促進		電話番号	087-839-2278
	基本事業	選ばれる地域づくりの推進		事業実施主体	市
	事務事業	地域おこし協力隊活動事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市の中でも、特に人口減少により地域力が低下している山間部や島しょ部において、地域力の維持及び強化並びに地域の活性化に資するため、都市地域等からの人材を積極的に誘致し、「地域おこし協力隊」を配置する。				
30年度概要	山間部や島しょ部への隊員の配置（女木、男木、塩江（2人）、本庁） 地域コミュニティ協議会と連携した地域協力活動 【特別交付税措置対象】				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	山間部や島しょ部など、人口減少により地域力が低下している地域。
意図（どのような状態にしたいか）	対象地域において、県外から採用した地域おこし協力隊の隊員を配置し、地域協力活動に従事させることにより、地域力の維持・向上を図る

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
隊員の活動地域数	地域		3	3	4	4

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
隊員と地域コミュニティ協議会との連携により実施した事業数	事業	目標値		5	5	5	5
		実績値		4	4		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 平成29年度は本庁及び2人目の塩江担当の地域おこし協力隊員を採用し隊員5名による活動を予定していたが、平成30年2月末に育休中だった女木担当隊員が退任したほか、3月末まで塩江地区隊員1名が退任した。女木地区以外においては、各地域コミュニティ協議会等と連携した地域活動事業を実施した。	(目標達成度)						(達成度) 80.0% 28点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	(目標達成度)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]		12,212	22,324	27,689
（事業費）	[千円]		7,501	17,772	23,137
（職員人件費）	[千円]		4,711	4,552	4,552

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
本庁及び2人目の塩江担当の地域おこし協力隊員を採用したほか、担当隊員が育休中であった女木地区を除く地域において4名の隊員が活動を行った。平成30年3月末には塩江地区において、塩江隊員の活動状況報告会を行ったが、隊員の活動について、住民への周知が不十分であるため、さらに継続して隊員活動を周知していく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
今後、欠員となっている女木担当及び塩江担当の地域おこし協力隊員を早期に補充を行うとともに、隊員活動のさらなる周知活動等を実施する。			

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	国際・国内交流の推進と定住の促進		課(室)名	政策課
	施策	移住・交流の促進		電話番号	087-389-2135
	基本事業	選ばれる地域づくりの推進		事業実施主体	市
	事務事業	政策コンテスト開催事業		事業期間	平成29年度～平成32年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市が将来も若者から選ばれるまちであるために、将来を支える若者のアイデアを、本市の政策に取り入れるとともに、若者の地元への愛着を深め、地元に着着させることを目的として、政策コンテストを開催する。				
30年度概要	政策コンテスト開催 前年の政策コンテストの内容を踏まえた対応				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	本市に在住又は通勤・通学している者、若しくは本市に移住を検討している者で、中学生から39歳以下の者
意図（どのような状態にしたいか）	本市が将来も若者から選ばれるまちであるために、将来を支える若者のアイデアを、本市の政策に取り入れるとともに、若者の地元への愛着を深め、地元に着着させることを目的とする。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
政策コンテスト参加チーム数	チーム			10	10	10

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	アンケート結果による愛着が高まったとする割合	%	目標値			90	90	90
			実績値			84		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 政策コンテストの実施により、参加者の地元への愛着が深まり、目標を概ね達成した。 (目標達成度)							(達成度) 93.3% 32点
	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]			6,721	5,035
（事業費）	[円]			3,686	2,000
（職員人件費）	[円]			3,035	3,035

【評価】

評価ランク (A～D)	<b>A</b>	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	<b>改善継続</b>
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
政策コンテストを開催し、多くの参加と建設的な意見の提出等により、参加者・観覧者の地元への愛着が深まった（アンケート結果等）。高校生・大学生の参加者数が少なかったことが課題である。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
参加者の提案意欲の増進を図り、高校生・大学生の参加を促す。提案されたアイデアに対して前向きな検討ができるよう庁内における意識醸成に努める。			